

福の里グループホーム結

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念は作りあげている。保健・医療・福祉との連携を大切に地域と共に生活していきます。……など等。		
2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念にもとずき、家庭的な雰囲気を大切にするよう努めている。生きがいや楽しみ達成感のある生活が出来るよう努めている。	○	よりよく地域福祉の基盤となるよう地域と共に生活していきたい。
3	○ 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族会という場を設けより理解していただくよう努めている。(年2回)	○	事業所で行われる行事等に地域の方々も参加され、より理念の浸透に取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○ 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	気軽に挨拶や声など掛け合っている。認知症という事も管理者が話をし理解してもらっている。	○	隣近所の方々ともっと話しをする機会を作っていき、地域住民の方々に参加できるようなイベントを企画し一緒に取り組んでいきたい。
5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	行事等で保育園や地域の方々による、催し物を発表されみなさん楽しまれています。三味線演奏等行われます。	○	地域の方々とも定期的に活動が出来る場を増やして行きたい。

福の里グループホーム結

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	毎週2回のゴミ捨ての日には、ゴミ置き場の清掃を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価等で指摘された事は、話し合い改善に向けて取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議録をまとめ、そこでの意見等を生かし、より良い活動が出来るよう努めている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修等参加している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての資料を回覧し、今までの対応、これからの対応を考えるよう努めている。	○	虐待についての勉強会などを行っている。

福の里グループホーム結

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族には文書で示し、その上で十分な説明を行っている。		
13	○ 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・不満・苦情については、家族と話し合い解決に努めている。それらを今後生かせるよう努力しています。		
14	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	福の里便りという連絡手段を設け利用者の写真と生活状況を書き毎月送っています。家族からは『丁寧にありがとう』との声も届いています。	○	今後も継続していく。
15	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が話しやすくなるよう心がけている。家族会という機会を設けている。意見箱を設置している。		
16	○ 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている			
17	○ 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	その都度、話し合いをして勤務調整を行っている。		
18	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の不安がない様に出来る限りの異動・離職がない様に努力している。		

福の里グループホーム結

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	職員採用の際は面接時にチームケア・協調性の大切さを話している。性別・年齢が採用の判断基準にはなっていない。		
20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	会議等で随時話しをしている。		
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修等に参加し勉強する機会を増やしている。(施設外)		
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会での勉強会や他の事業所や同業者と話す機会を作りサービスの向上に努めている。	○	他事業所との交流を増やし情報交換など行いサービスの質の向上を計りたい。
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的にスポーツをしたり職員同士の親睦会を開いたりしている。	○	スポーツ以外の参加の声かけなども行って行きたい。
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	出来るだけ職員と話をする機会を作り向上心を持って働けるように努めている。	○	職員の意見を聞く時間を増やしていきたい。

福の里グループホーム結

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	○ 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	不安・不穏を訴えて来られた際は、職員は作業を一端中止して、訴えを傾聴し少しでも不安を取り除けるよう努力している。		
26	○ 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	施設見学に来られた際、施設内見ていただいた上で、家族の不安・希望を伺っている。		

福の里グループホーム結

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所希望であっても、利用者の体調・状況に合わせ、他施設の紹介やデイサービスの利用等をすすめる事もある。		
28	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	長期目標プランの中で、利用者の不安を取り除けるよう職員の声かけや対応を工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	季節の行事では昔行っていた所、外出先では昔の風景を思い出していただき話を聞かせてもらっている。又、茶碗拭きやモップ掛け、花の水やり等出来る事は手伝ってもらい、感謝の気持ちを伝えている。		
30	○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ホーム内での利用者の状況が分かるよう、毎月福の里便りと題して生活状況の報告を手紙にし送る事で、ご家族から『安心』の声が聞けたり協力が得られている。		
31	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族の面会時には利用者の自室にて自由に過ごしていただいている。家族の宿泊も受け入れている。		
32	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状・暑中見舞い等、利用者の知人や家族に出している。返事が届き手紙を出したり、又面会に来られる方もおられ、利用者様も喜ばれている。	○	年賀状など出来るだけ自筆で出せる様支援しているので、今後も続けていきたいです。
33	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の趣味や、得意・不得意を知る事で利用者同士が一緒に出来る事、会話等工夫している。		

福の里グループホーム結

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他施設へ転居した利用者に会いに行ったりしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者に役割を持ってもらう事で毎日の生活に張りを出す工夫を行っている。		
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの利用記録や、コミュニケーションをはかりながら、生活歴等を聞き出し職員皆が、全利用者を把握できる様努力している。	○	コミュニケーションをもっと今以上にはかり利用者の生活歴など知るようにしたい。
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個別処遇マニュアルやADL等記入した紙を事務所にはってあり、スタッフ全員が利用者の生活状況を把握できるようにしている。日中のレクリエーションは自由参加。余暇活動に関しては、利用者それぞれの趣味を楽しんでもらっている。		
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	課題が上がれば、その時いる職員間の話し合いから、担当者会議を開き全職員が意見を出し合い家族に同意を求めている。		
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランの見直し、利用者の状況の変化があった場合は、その都度話し合いを行い変化にすぐ対応出来るように努力している。		

福の里グループホーム結

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の勤務者(早出・日勤・遅出・夜勤)がそれぞれ、記録を行っている。排泄時間・回数・食事摂取量・水分摂取量を記録し、翌日の介助に役立っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 of 要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームに入所しなくても、利用者の状況に応じデイサービスやショートステイ等の利用サービスがある事を紹介している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	会議や行事等に出席し、顔見知りになる事から災害時等の協力をお願いしている。		
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	グループホーム協議会や研修等に参加する事で、他事業所との交流、情報交換を行っている。		
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を行い地域包括支援センターの方にも出席していただき、当グループホーム利用者の状況を知ってもらう事で協力をお願いしている。		
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各専門分野のかかりつけ医院がある為、家族、本人と話し合った結果、変更される方もおられるが、納得していただけない場合は以前通っていた医院にかかる様にしている。		

福の里グループホーム結

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じ、認知症専門医の治療を受けている。		
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常勤の看護師がおり、利用者の状況を把握している。		
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	定期受診での情報提供では、入院後の情報交換や相談は頻繁に行っている。		
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の対応については、入所される時、家族会等で家族の意見を聞き、対応出来るよう努力している。		
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	グループホーム内で終末期を迎える事により、出来ない事が問題点に上がり、市や病院等、相談、協力を仰ぎ行っている。		
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者の一日の生活状況、体調、受診状況や服薬等、転所先への情報交換を行っている。		

福の里グループホーム結

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
52	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご夫婦での入所もある為名前では呼ぶ事もあるが、声かけ対応には高齢者の方に対し、丁寧な言葉かけを行っている。記録は見守りを行いながらの記入もあるが、目に触れない様管理している。		
53	○ 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者一人一人認知力が違う為、その方に合った対応又は不穏時にもすぐに否定せず、利用者の訴えを聞き、納得していただける様な対応を心がけている。		
54	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	月に一度の外出時には、外出先から事前にメニュー表を借り利用者本人に好きなものを決めてもらっている。又レク時にはどんな事をしたいか聞き出し希望に添える様支援している。		
55	○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	現在は職員が散髪を行っている。毎日の身だしなみは自立されている方はもちろん、介助が必要な方にも支援できている。美容部員さんが来られメイクなど行ってもらっている。		
56	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備等は厨房職員が行っている為、方付け(茶碗拭き)を利用者に手伝ってもらっている。他、月に一度のペースで昼食作り、お菓子作りを行っている。その際は買出しから調理まで利用者と一緒にしている。		
57	○ 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのおものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個人で自室にお菓子を持っている方、施設でおやつを管理している方と様々です。		

福の里グループホーム結

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	食事の前後には自然とトイレに行けるよう誘導している。毎日の排泄パターンを記録し排泄時間を知る事で日々の介助に役立てている。		
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員の人数の都合で13:00～16:00が入浴時間となっている。週に3回は入浴出来るよう支援しているが、本人の希望で入浴するかしないか決めている。		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	消灯時間は21時だが生活のリズムを壊さない程度に休んでもらっている。又、入浴で体力を消耗する方は入浴後、臥床時間を取っていただいている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	コミュニケーションを取り、聞き出した生活歴や趣味から毎日の生活の中で行える役割を持ってもらえる様、支援している。		
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前、泥棒がくる等の不穏訴えがあった為、現在利用者はお金を所持しておらず事務所で管理している。買い物等に出た際には、お金を手渡し、レジで利用者から払っていただく様工夫している。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望を聞き、できる限り支援している。		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月に一度の外出や、他施設との交流会等、工夫しながら支援している。		

福の里グループホーム結

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や年賀状、暑中見舞い等出せる様支援している。返事が届いたり、手紙が届いたと相手からお礼の電話が入ったりして大変喜ばれている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時には、自室にてゆっくり過ごしていただいている。面会に来られる方と、利用者皆さんが顔なじみになり笑顔で迎えいれている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に2度行われる会議や、職員間でのミーティング等で職員皆が理解でき充分に取り組めている。		
68	鍵をかけないケアの実施 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、門扉は開け玄関には鍵を掛けておらずオープンなグループホーム作りができています。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、職員それぞれが担当の持ち場があり利用者の安全を見守っている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険を未然に防ぐ為、共有スペースに刃物を置かない等工夫している。又薬は誤飲等あってはいけない為、職員が管理している。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員が利用者の状態を常に把握する事で事故防止に取り組んでいる。急変時に対しては、瞬時に対応出来るように会議を通し勉強を行っています。火災についても消防訓練を行い、消防団の方から火災予防等指導を受けている。	○	これからも勉強会などを通し事故防止に取り組んでいきたい。

福の里グループホーム結

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防訓練や事故発生時の対応マニュアル等を作成し、緊急に備えている。また会議等でも看護師から応急手当処置方法の指導を受けている。	○	緊急時における訓練などもっと取り組んでいきたい。
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に消防訓練を行っている。地域の消防分団の方々と連携をとり火災時に備えている。	○	地域の方々との交流を増やして災害時などには、消防分団の方以外にも協力を得られるようにしていきたい。
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	家族会議を開催している。面会時などに話が出来るようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	異変があった場合は直ちに報告し職員全員が把握できるように努めている。看護師にも報告し指示を仰ぐ様にしている。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬マニュアルを見て利用者一人ひとりの服薬管理を行っている。看護師からも報告を受けるようにして確認に努めている。		
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	利用者一人ひとりの排便日を記録して残しているので、マッサージを行ったり、歩いてもらったりなどして対応に努めている。		
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	声かけし毎食後、口腔ケアを施行している。歯磨き、義歯の手入れ、うがい等など、利用者の力に応じた支援をしている。		

福の里グループホーム結

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事チェック表に利用者一人ひとりの摂取量を記入する様になっているので職員全員がチェック表を見て把握できる様になっている。		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザは利用者全員が予防接種を受けている。感染症などは、回覧を回して対応等が分かるように努力している。		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器類は加熱により定期的に消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	庭に花壇を作り花を植えたり、プランターで野菜を栽培したりして、利用者と一緒にお世話をしている。玄関にも置物やポスターなど貼って明るい雰囲気が出る様にしている。		
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には、月ごとに、ちぎり絵など利用者が作成した物を貼ったり、廊下には写真を飾るなどしている。時計やカレンダーを目のつく場所に設置している。		
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを置いて、その場所で利用者同士が気軽に話しをされたり、ウッドデッキや窓際に座られ、日向ぼっこなどされている。		

福の里グループホーム結

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が使用していた家具や布団など持ち込まれて安心して過ごせる場所となっている。		
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度計・湿度計を置いて換気を行っている。冷暖房は冷やし過ぎや暖め過ぎがない様に適切に行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで段差をなくしたり、手すりなど設置している。		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレには目印のポスター、居室には表札を飾るなどしている。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関周辺では花など植えたりベンチを設置している。ウッドデッキではプランター栽培をしてもらい、ベンチを設置して水やりや日向ぼっこなど楽しめている。		

福の里グループホーム結

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
		○	利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と
		○	家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

福の里グループホーム結

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
		○	たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
		○	少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
		○	職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
		○	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
		○	家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

季節の行事を大切に月に1回のペースで外食にも行っています。その他にも外に出る回数を増やし、季節の花や自然の空気に触れてもらうよう心がけています。利用者の要望・希望により応えられるよう支援しています。食べたい物があれば行事として皆さんに作っていただき食べてもらっています。何処か行きたい所があれば散歩や一緒に買い物に行ったり近くの公園まで、おやつやお弁当を持って行ったりもします。出来る事はしてもらい出来ない事へのお手伝いを心がけています。